

わんしょた音声作品

『クールできびしい、たまにちょっとやさしいお師匠さまと、森の庵で淫遁生活』脚本

02.秘薬の材料提供・手搾りで精液採取

場所:魔女の庵・実験室

お待たせ…………あら？

もう服を脱いで裸になって……

物覚えの悪いあなたでも、さすがに何回もされたことだから
作業の手順を覚えてしまったみたいね。

『師匠』である私の手をわざらわせないのは、いいことよ。

あなたたって、こんなことは時間をかけずに

早く終わらせたいでしょしね…………

それとも——

秘薬の原料採取の作業……

早くシテほしくて、ガマンできずに

自分から服を脱いで待っていたのかしら？

……ん～？ どうやらそっちが正しかったみたいね。

あなたの小さな……ソレ。

もうカチコチにそそり立って、蜜を垂らしているじゃない？

んふ……自分で触ってはダメよ？

蜜が一滴でもこぼれたら、勿体ないもの。

あなたをここに置いてあげている、もう一つの理由……

私が作る秘薬には、若い少年の精液が欠かせないよね。

……あら？ 怯えているの？

安心しなさい、もう最初の頃のようにはしないから。

初めての夜は、何度も、何度も……

あなたが気絶しても、魔法で意識を呼び戻して

小さなオチンチンを何度も何度も絶頂させて、

強制的に精通を迎えさせてあげたわよね……

あなたがどんなに泣きわめいて許しを乞うても、

私は決してやめないで……
指で、手で、口で、胸で……
一晩かけて、コレが使い物になるようにしてあげたわ。

未発達の陰嚢をヒクヒクと痙攣させて、
みっともなく腰を振り続けて、
何度も空撃ち絶頂するあなたの姿……まだ覚えているわよ？

苦しそうなキンタマの中で、
グルグル渦巻いていた初物精液……
ようやく解放された悦びと快感で、
純度と品質が高まって……
素晴らしい原料になったわ♡

もうアレと同じモノは出せないでしょうけど……
せめて回数と量はがんばって、
あなたの『お師匠様』に貢献しなさい？

…………あら？

……思い出しただけで、もう射精しそうになっているの？
腰をヘコヘコさせて……本当、こらえ性のないこどもチンポね。

いい？ あなたの精液は、すべて私のものだから……
無駄撃ちは許さないわよ？
わかったら、ゆっくり頷きなさい……？

…………
……そう、いい子ね。

それじゃ、台の上で四つん這いになりなさい？
そう、そのほうが搾りやすいから。

……いいわよ、そこに手をついて。
お尻を上げて？
……見たことないかしら？
乳搾りをされる牛のような格好で……ね？

……そう。そのまま動いてはダメよ？

ふうん……力チカチに芯が入ったオチンチンが
下に向かって垂れ下がって……

.....わかる？

今あなた、乳房を丸出しにして、乳搾りを待つ牝牛のようよ？

もっとも、出しているのは乳房ではなくオチンチンで、

搾られるのはザーメンミルクだけど——

では、始めるわよ？

オチンチンを、真下に向けて.....？

そうよ、そこに置いてある壺に射精するの。

.....一滴でもこぼしたら、いつものようにお仕置きをするから.....

わかっているわよね？

それじゃ、いくわよ.....？

ん.....本当に、カチカチね。

小さな勃起だけど.....私の指、生意気にグイグイ押し返してくるわ？

ふ.....ふつ.....

陰嚢も、中身が詰まってパンパンになってる.....

私の言いつけを守って、オナニーは控えていたようね？

感心よ、褒めてあげる.....

ふ.....ん.....んつ.....ふう.....

.....？ ほら、腰が引けているわよ？

私が手で搾りやすいように.....ほら。

シャンと膝を立たせていなさい。

んつ.....ん.....

もう、『師匠』の言うことが聞けないのかしら？

魔法であなたを縛り付けて、

強制的に精液を排泄させてもいいのよ？

もういやでしょ？

三日三晩、誰も助けに来ない実験室で

無理やり精液を垂れ流し続けさせられるのは.....

ふう.....ん.....ん.....ん.....

.....？ もしかして、恥ずかしいのかしら？

まったく……もう何度目の搾精作業だと思っているの？
いい加減慣れなさい？

あなたの恥ずかしい格好も、みつともない悲鳴も……
私にしかわからないことなんだから、
気にすることないわ。

だから……ほら、ね？
女の子みたいな喘ぎ声をあげて、
さっさとイッてしまいなさい？

まだ本気を出していない、
亀頭のエラを指のリングでチュコチュコされるだけの
弱～い手コキ搾りで……
オナ禁で何日も貯めた濃ゆい精液、
壺の中に中出し排泄してしまいなさい？

ほら……ほら……ほら……つ。

ん……ん……んっ……

ふう……出たわね。

ん……相変わらず、この瞬間は……
指の間で、ちんぽの幹がビクビクと脈打って……
生命のを感じるわ。

もっとも、遺伝子を残すわけではない
無駄撃ち射精なのだけれど……

それがわかっているはずなのに、
こんなに必死で尿道から精液を押し出して
嬉しいものなのかしら……ねえ？

……まあいいわ。
いずれにしても、秘薬の材料には
コレが必要なわけだし……

…………あら、出し終わったようね。
早漏のあなたも、こんな時だけは役に立つのね。
指だけで、それもこんなに早くイケるなんて……
まあ、男としては、とてもみつともないことなんだけど。

.....？ 気にすることないわよ？
都でも、これだけ早い男はいなかつたわ.....
しかも、若くて上質な精液を提供してくれる。
あなたをここに連れてきてよかったです。
掘り出し物、というやつかしら。

.....で～も。

まだまだ、必要な分には全然足りないわ？
もっとたくさん出して.....この壺がいっぱいになるくらいに。
それくらいは溜めているのでしょうか？

んつ.....ふ.....ほら、ほら.....
ん.....んつ.....

二回目だと、さすがに立ち方が悪いのかしら？
さっきまであんなに力チカチだったのに、
芯が抜けてフニヤツとしているわよ？

ほら、今度は手のひらで包んであげるから.....
勃起、してしまいなさい？

ふつ.....ふつ.....ふつ.....ふつ.....
ふつ.....ふつ.....ふつ.....ふつ.....

.....もう、なかなか言うことを聞かないわね。
いつもなら、弄つたら弄つただけ射精する
マゾチンポのクセに.....

まさか、最初の射精でもう体力を使い果たしたのかしら？

ううん.....たくさん搾れるようにと、
最初に期待させて、焦らしすぎた反動かしら。
一度の快感がすごすぎて、オチンチンがもう満足してしまった、とか.....？

なかなか思い通りにはいかないわね.....
魔法を使ってしまえば楽に済むのだけど.....
こうして手搾りで採取しないと、質がどうにも.....ね。

.....ええ？ ああ、ごめんなさい。
考え方をしていたわ。
でもあなたが悪いのよ、さっさと勃起しないから。

.....え？

ふうん.....口でしてほしい、ね。
『師匠』の舌でナメナメしてもらつたら、
もっと気持ちよくなる.....と。

まあ、たしかにね。
手コキよりも、フェラチオのほうが
快感の強さは大きいだろうし.....

でも、ダメよ？
私の唾液が混じつたら、
精液の純度が落ちてしまうもの。
だから、フェラチオはお預け.....

その代わり.....
舌を使って、というのはいいアイディアだから
試してみましようか？

//主人公のおしりに回る。
//「よいしょ.....」的な掛け声と、少しの間を空けてください

ほら、振り向かないで、ジッとしていなさい？
.....不安なのかしら？

安心しなさい、痛くはしないから。
.....むしろ、もっと、もっと.....気持ちよくなれることかも.....♪

.....ちゅぴつ。

.....はい、大きな声を上げないの。

わかるかしら？
いま、あなたのおしりの穴に入っているの.....
私の人差し指よ？
ほら.....痛くないでしょ？

あなたは知らないかもしれないけど.....
男性のここには、あるツボが隠されていてね？
そこを刺激されると、強制的におちんちんが立ってしまうの。

ほら.....力抜いて？

あなたのツボは、どこかしら……
この辺り？ それとももっと奥？
こうやって、おしりの穴をクチュクチュ鳴らして……
私の指で、探し出してあげる……

ふつ……ふつ……ふつ……ふつ……
…………？ ふう……ふう……ふう……
…………！

見つけた……♡

わかる？ このコリコリした、クルミ大の器官……
男の子が精液を造っている場所なんだけど……

ここを指で強く押されると、どんなに疲れていても……
オチンチンは強制的に勃起させられてしまうの？

大量射精しすぎて、ヘトヘトになった
フニャチンでも……ほらっ……

……ね？ 今日初めて勃起したみたいに、ビンビン♪
ツヤツヤになった亀頭に、私の顔が映りそうよ？

それじゃ、オチンチンがもう一度萎えてしまわないように……
今度は、おしりと一緒に手で刺激してあげるわ？

ふつ……んん……ん……ん……ん……んつ……

……どう？ 気持ちいい？
オチンチン、手のひらでごしごしシゴかれるのと一緒に
おしりの穴をクチュクチュされるの……

ほら、絶対に動いてはダメよ？
少しでもオチンチンが固くなるように……
爪を立てて、勃起のツボを
コリ、コリって引っかくように撫でているんだから……

ふ…………ふ…………♡

……あら？
オチンチンから、よだれ……出てきたわね？
射精……じゃなくて……？

さっきの残り汁が漏れてきているのかしら？

気持ちいいみたいね？

口からは、さっきからわけのわからない悲鳴しか出ていないみたいだけど……

こうしてお残しザーメンぐいぐい押し出して、

透明なおつゆが後から後から流れてくるのは、気持のいい証拠よね？

……答えられない？

それだけ感じていると言うことかしら。

いい傾向よ。

強い快感と共にひり出された精液は、上質な原料になるから……

ああ、答えなくていいわ。

あなたはそのままヒーヒー言いながら、

牝牛のようにミルクを出していればいいの。

ほら……もっとよくしてあげましょうか？

…………れろっ。

れる……れちゅつ……れるる、くふ°……

じゅふ°、れる……れる、れる……

ふう……どう？

私の舌、おしりのツボまで届いているかしら？

……そんなどろけた声で呼ばれても、

何を言っているのかわからないけど……

さっきよりも快感が増してきたのは確かなようね？

手のひらの中で、オチンチンがビクビク暴れ出したし……

あなたのおしりが、私の舌をちぎってしまうくらい

ギュッと締まったもの……

ほら……あなたが望んだ『お師匠様』のベロよ？

最高の快感でしょう？

もっと舐めて……れるつ。

オチンチンのほうも、強く搾ってあげる……

れるつ、じゅふ°じゅふ°じゅふ°じゅふ°……

ふー……ふー……じゅぶっじゅぶっじゅぶっじゅぶっつ。

はあ……れる……ぐふつ、じゅふつじゅふつじゅふつ。
れる、れろれろれろれろ……じゅふつ、れるれる……

……ふあつ……はあ……

ほら、出しなさい。
自分では触れないツボを刺激されて、
女の子のように声を上げて……

秘薬の原料……まだ皮をかむった
未発達の亀頭から、音が出るくらいの勢いで……

ほらっ……ほら……
ビュ——ツテ……出すの？
ビュ——ツ、だからね？ いい？ ほら……
1、2、3……ビュ——……ビュ——ツ。

……つ！？
つはあ……いきおい、すごい……
背中をのけ反らせて、ビクビク、ビクビク……って。

ほら、ザーメン射精……止めてはダメよ？
ビュー、ビュー、ビュー……
指のリングで、チュコチュコ手コキ、続けてあげる……

ビュー……ビュー……ビュー……
ビュー……ビュー……ビュー……ツ……

……んつ……出た……
んうつ……ん……ん……ん……ん……んつ……

…………はい、よく出来たわね。
最後の一滴まで、搾り出してあげるからね……
…………んつ……ほら……ほら……

…………ふう。
あらあら、おしりの穴をヒクヒクさせて……
よっぽど気持ちがよかったです。

私もいい研究になってよかったです。
勃起のツボを押されたあなたが
どんな反応を示すのか……ね。

壺のほうは……うん、半分くらいは貯まったみたいね。
わかる？ これ、みんなあなたが出したのよ？
意識が飛んでしまうくらいイッていたものね……
尿道の栓が壊れてしまったのかと思ったくらいよ。

オチンチンも……真っ赤に腫れてしまって、
痛々しいわね……よしよし。

でも、それはそれとして……
はい、もう一度勃起してみなさい？

……ん？ もう無理？
何言ってるの、事前に言っておいたはずでしょう？
ほら、見てみなさい？

……イク瞬間、勢いよく身体をのけ反らせるから
壺の口からこんなにこぼれてしまって……

……言ったわよね？
一滴でもこぼしたら、お仕置きだって。

さて、今度はどんな方法で搾ろうかしら。

ああ、あなたはそのままジッとしていればいいわ。
私があらゆる知識と手段を用いて、
勃起と射精を繰り返させてあげるから。

そうね……この壺が精液で満たされるまで、
今日は夜通し付き合ってもらおうかしら。

精液が枯れたら、自慢の秘薬でいくらでも
復活させてあげるから……

//耳元でささやきっぽく
朝が来るまでには貯まるといいわね。
今夜は長い夜になりそう……

//END